

## II 農業

### 1 農業の概要

#### (1) 農家数

2020年にける八重山圏域の農家数は899戸で、県全域の約6%を占める。その内、販売農家は838戸おり圏域内に占める割合は93%で、他圏域と比較すると高い割合となっている。

また、主副業別農家では、主業及び準主業の占める割合が、石垣市で51%、竹富町で63%となっており、県全域の割合に比較し高い地域となっている。

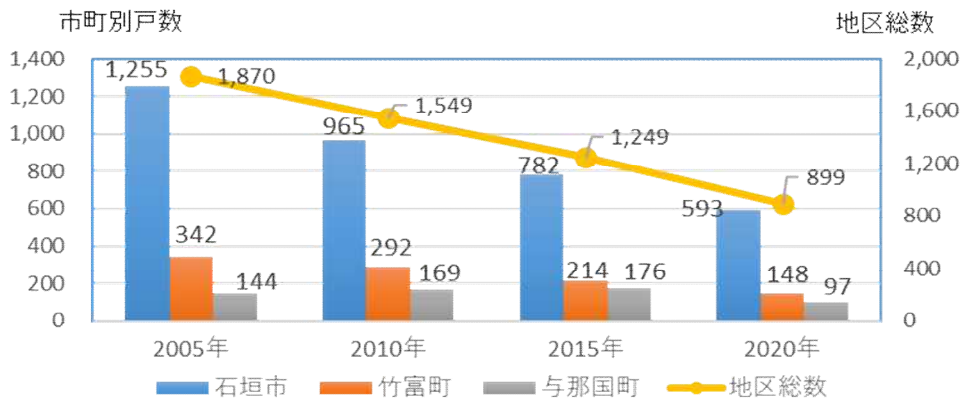
■ 2020年農家数に占める販売農家の割合

単位：戸

	総農家数		
	販売農家	自給的農家	
県計	14,747	10,674 (72%)	4,073
北部	3,805	2,789 (73%)	1,016
中部	1,657	650 (39%)	1,007
南部	4,426	2,714 (61%)	1,712
宮古	3,960	3,683 (93%)	277
八重山	899	838 (93%)	61
石垣市	620	593 (96%)	27
竹富町	164	148 (90%)	16
与那国町	115	97 (84%)	18

※資料：2020年農林業センサス

■ 販売農家の推移(地区総数及び市町別戸数の推移)



■ 主副業別経営体数

単位：戸

市町村	計	主業		準主業		副業的
			65歳未満の 農業専従者 がいる		65歳未満の 農業専従者 がいる	
2020年 石垣市	586	232 (40%)	214 (92%)	64 (11%)	34 (53%)	290
竹富町	145	83 (57%)	79 (95%)	8 (6%)	5 (63%)	54
与那国町	103	17 (17%)	16 (94%)	28 (27%)	15 (54%)	58
2015年 石垣市	782	303	286 (94%)	135	73 (54%)	344
竹富町	214	123	122 (99%)	27	19 (70%)	64
与那国町	176	45	38 (84%)	64	23 (36%)	67
2010年 石垣市	965	361	335 (93%)	219	126 (58%)	385
竹富町	292	158	147 (93%)	41	22 (54%)	93
与那国町	169	39	29 (74%)	74	41 (55%)	56

※資料：農林業センサス

## (2) 年齢別基幹的農業従事者

2020年における八重山の基幹的農業従事者は994名で、65歳以上は56%を占めている。県全域のに比較し緩やかであるが高齢化が進んでいる。

2010年及び2015年と比較すると、年齢別では50～59歳の割合の減少が顕著となっており、若い年齢層が進展していない状況にあり、引き続き担い手の確保は重要な課題となっている。

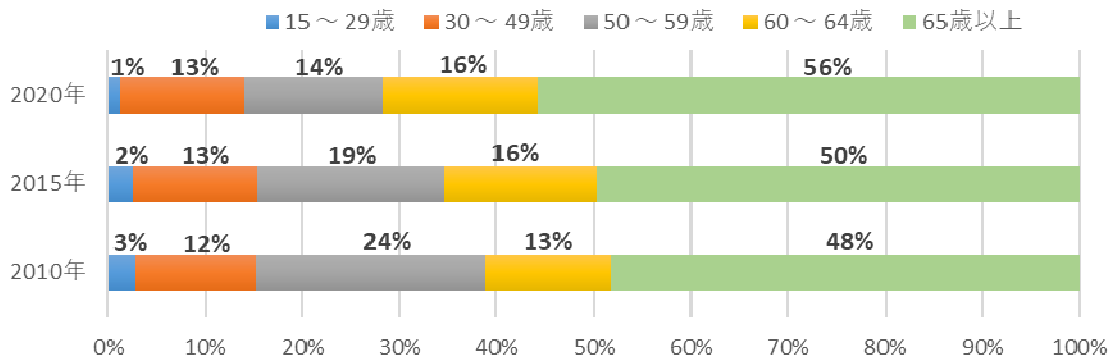
■2020年圏域毎の比較表

単位：人

	計	15～29歳	30～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
県計	13,288	138	1,483	1,729	1,903	8,035 (60%)
北部	3,717	40	506	491	566	2,114 (57%)
中部	957	12	149	101	120	575 (60%)
南部	3,551	47	466	524	481	2,033 (57%)
宮古	4,068	27	235	471	577	2,758 (68%)
八重山	994	12	127	142	159	554 (56%)
石垣市	737	10	88	102	104	433 (59%)
竹富町	173	2	29	27	38	77 (45%)
与那国町	84	0	10	13	17	44 (52%)

※資料：2020年農林業センサス

■八重山圏域における年齢別構成比の年比較表



## (3) 耕地面積

八重山の耕地面積は、令和3年で7,716haで、その内、畑は7,246haで約9割りを占め、県全域のとなっている。

一方、八重山の田は463haで、圏域内の6%となっているが、県全域の田の58%を占め、県内における主な米の生産地となっている。

■八重山圏域耕地面積の推移

単位：ha

年	耕地面積	耕地面積	
		田	畑
令和3年	7,716	463	7,246
令和2年	7,770	468	7,300
令和元年	7,800	468	7,330
平成30年	7,870	468	7,400
平成29年	7,900	470	7,430

※資料：内閣府沖縄総合事務局「沖縄農林水産統計年報」

農林水産省「作物統計調査：農林水産関係市町村別統計」

■令和3年 耕地面積圏域別比較表

単位：ha

圏域	市町村面積 (km <sup>2</sup> )	耕地面積	耕地面積	
			田	畑
県計	2,282.2	36,500	800	35,700
北部	788.2 (35%)	6,787 (19%)	291 (36%)	6,491 (18%)
中部	283.4 (12%)	2,096 (6%)	28 (4%)	2,068 (6%)
南部	392.2 (17%)	8,336 (23%)	17 (2%)	8,329 (23%)
宮古	225.9 (10%)	11,588 (32%)	0	11,588 (32%)
八重山	592.5 (26%)	7,716 (21%)	463 (58%)	7,246 (20%)
石垣市	229.2 (39%)	5,300 (69%)	318 (69%)	4,980 (69%)
竹富町	334.4 (56%)	1,910 (25%)	85 (18%)	1,820 (25%)
与那国町	28.9 (5%)	506 (7%)	60 (13%)	446 (6%)

※資料：農林水産省「作物統計調査：令和3年農林水産関係市町村別統計」

(4) 経営耕地面積

各圏域の耕地面積規模毎に経営体数の割合を比較すると、当圏域は、2ha以上を有する経営体の割合が他の圏域よりも高く、石垣市では経営体の約5割、竹富町では約8割、与那国町では約4割に達し、経営する耕地面積が大きいのが特徴である。

■令和2年 経営耕地面積規模別経営体数

単位：経営体

市区町村	計	経営耕地なし	1ha未満	1.0～2.0ha	2.0～3.0ha	3.0～5.0ha	5.0ha以上
県計	11,310	229	5,484	2,712	1,202	939	744
北部	3,016 (100%)	62 (2%)	1,831 (61%)	608 (20%)	213 (7%)	171 (6%)	131 (4%)
中部	743 (100%)	52 (7%)	538 (72%)	91 (12%)	26 (3%)	21 (3%)	13 (2%)
南部	2,893 (100%)	65 (2%)	1,908 (66%)	450 (16%)	145 (5%)	120 (4%)	203 (7%)
宮古	3,772 (100%)	38 (1%)	1,035 (27%)	1,381 (37%)	690 (18%)	435 (12%)	193 (5%)
八重山	886 (100%)	12 (1%)	169 (19%)	182 (21%)	127 (14%)	192 (22%)	204 (23%)
石垣市	627 (100%)	9 (1%)	119 (19%)	147 (23%)	83 (13%)	134 (21%)	135 (22%)
竹富町	151 (100%)	1 (1%)	12 (8%)	13 (9%)	28 (19%)	45 (30%)	52 (34%)
与那国町	108 (100%)	2 (2%)	38 (35%)	22 (20%)	16 (15%)	13 (12%)	17 (16%)

※資料：2020年農林業センサス

(5) 沖縄県市町村別農業産出額

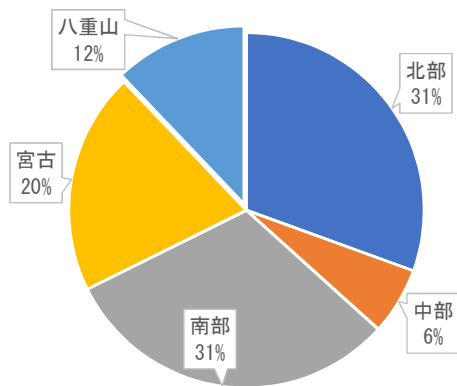
令和2年沖縄県市町村別農業産出額

単位：1,000万円

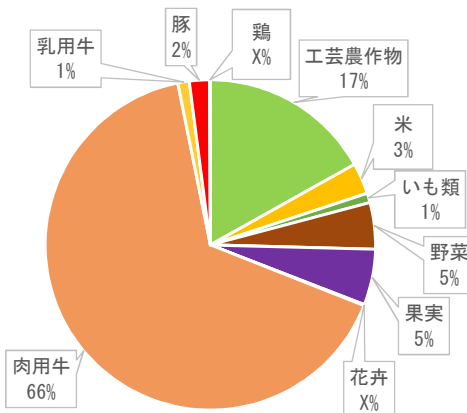
市町村	耕 種											畜 産					加 工 農産物	
	農業 産出額 ①+②+③	小 計 ①	米	豆 類	いも類	野 菜	果 実	花 き	工 芸 農作物	その他 作物	小 計 ②	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他 畜産物		③
県 計	9,099	5,125	50	4	89	1,272	602	203	2,254	1	3,973	1,983	356	1,056	462	12	1	
北 部	2,779	1,517	17	1	22	320	352	133	357	1	1,262	433	48	395	314	8	0	
中 部	559	318	0	0	19	120	32	18	68	0	239	123	16	29	39	1	0	
南 部	2,820	1,570	0	1	31	631	79	51	540	0	1,252	251	280	611	99	2	0	
宮 古	1,838	1,361	0	2	7	152	80	1	1,107	0	477	466	0	0	10	1	1	
八重山	1,103	359	33	0	10	49	59	0	182	0	743	710	12	21	0	0	0	
石垣市	876	281	27	-	10	37	52	x	131	-	594	561	12	21	0	0	0	
竹富町	162	39	6	0	0	5	6	0	20	-	123	123	-	-	-	-	0	
与那国町	65	39	0	-	-	7	1	-	31	-	26	26	-	0	0	0	0	

※資料：農林水産省「市町村別農業産出額」のデータを基に集計を行った。

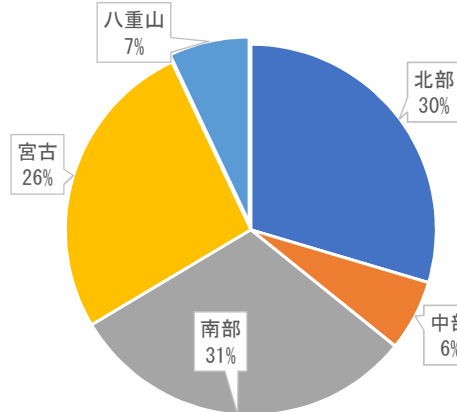
●グラフ1：圏域別農業産出額比較表(割合)



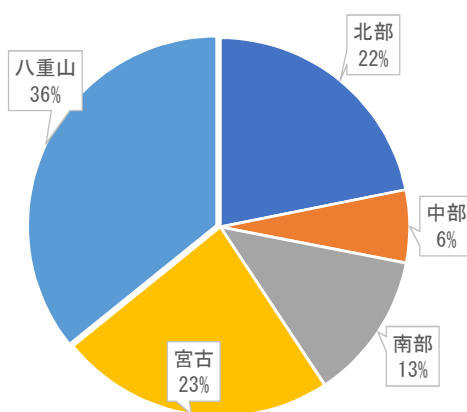
●グラフ2：八重山圏域品目別農業産出額比較表(割合)



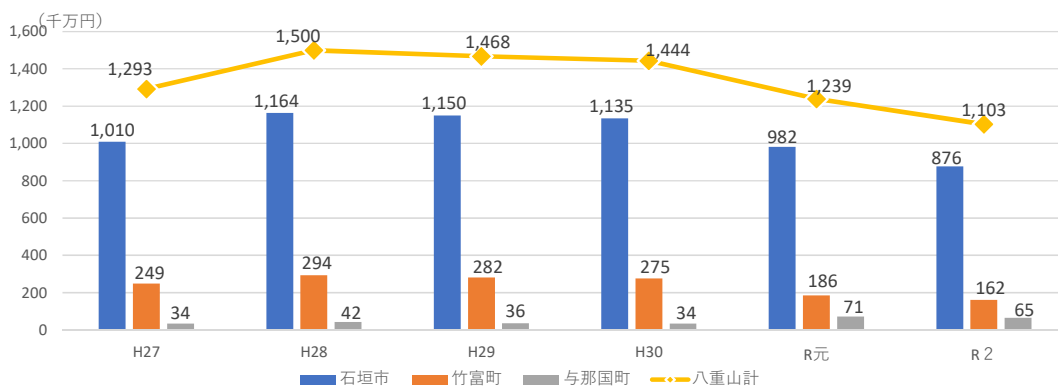
●グラフ3：圏域別耕種産出額比較表(割合)



●グラフ4：圏域別肉用牛産出額比較表(割合)



●グラフ5：八重山圏域市町村別農業産出額の年別推移



## 2 農作物

### ■さとうきび

八重山圏域における令和3/4年期のさとうきび生産量は138,148トンで、前期に対して20,074トンの増加となった。県全体に占める生産量の割合は16.9%であり、前年より2.4%増加した。収穫面積は2,122haと前期より232ha増加し、10a当たりの収量は6,510kgと前期より264kg増加した。

作型別では、八重山地域全体の生産量に占める夏植の割合は44.0%（前期47.0%）、春植9.5%（前期11.0%）、株出46.5%（前期42.0%）であり、株出の割合が4割以上を占めている。台風被害に強く安定した収入が確保できる夏植を主流とし、土壌害虫等に対して効果的な防除農薬の普及と、株出し管理技術の定着により安定した株出栽培が可能となった。

さとうきび原料の工場買い入れ価格は、平成6年度から甘蔗糖度を基準とした品質取引へと移行された。八重山地域の平均甘蔗糖度は、分みつ糖が14.1度、含みつ糖15.0度で、平均が14.4度となり、前年とほぼ同等であった。八重山地域の農家手取額はトン当たり23,414円となり、前期の22,624円より増額となった。

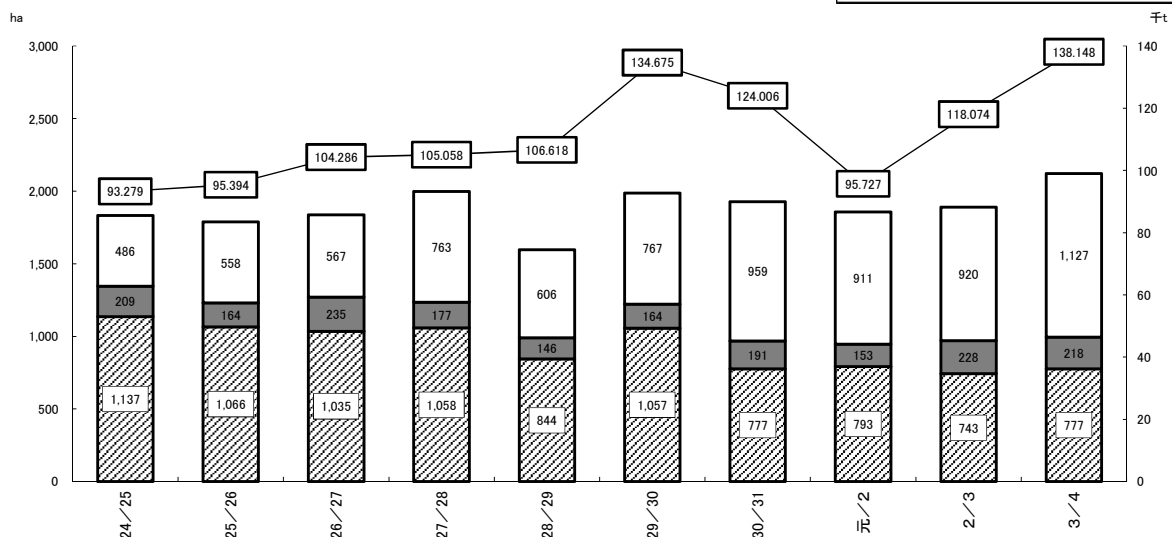
### ○令和3/4年期 さとうきび作型別生産実績

工場名	夏植			春植			株出			合計			前期(R2/3)合計		
	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)
県計	3,643 (26.4)	7,476	272,325 (33.4)	1,353 (9.8)	5,242	70,901 (8.7)	8,796 (63.8)	5,368	472,200 (57.9)	13,791 (100.0)	5,913	815,426 (100.0)	12,871 (100.0)	6,323	813,853 (100.0)
沖縄本島	216 (8.8)	6,413	13,825 (11.3)	362 (14.7)	4,789	17,356 (14.2)	1,881 (76.5)	4,818	90,642 (74.4)	2,459 (17.8)	4,953	121,822 (14.9)	2,453 (19.1)	5,107	125,260 (15.4)
石垣島製糖	479 (31.8)	7,993	38,250 (38.4)	198 (13.1)	6,098	12,089 (12.1)	829 (55.0)	5,932	49,191 (49.4)	1,506 (10.9)	6,608	99,530 (12.2)	1,336 (10.4)	6,412	85,658 (10.5)
竹富町小浜製糖工場	33 (42.9)	7,565	2,514 (51.8)	7 (9.1)	4,563	309 (6.4)	37 (48.1)	5,454	2,033 (41.9)	77 (0.6)	6,284	4,856 (0.6)	68 (0.5)	5,629	3,852 (0.5)
西表糖業	82 (41.0)	9,106	7,503 (51.5)	13 (6.5)	5,659	710 (4.9)	105 (52.5)	6,029	6,354 (43.6)	200 (1.5)	7,271	14,567 (1.8)	177 (1.4)	6,489	11,459 (1.4)
波照間製糖	140 (60.1)	6,642	9,305 (70.9)	1 (0.4)	2,295	12 (0.1)	93 (39.9)	4,110	3,814 (29.0)	233 (1.7)	5,625	13,132 (1.6)	209 (1.6)	6,061	12,645 (1.6)
JA与那国製糖工場	43 (41.0)	7,383	3,183 (52.5)	0 (0.0)	3,603	3 (0.0)	62 (59.0)	4,662	2,877 (47.5)	105 (0.8)	5,780	6,063 (0.7)	101 (0.8)	4,425	4,460 (0.5)
八重山計	777 (36.6)	7,815	60,756 (44.0)	218 (10.3)	6,015	13,122 (9.5)	1,127 (53.1)	5,705	64,270 (46.5)	2,122 (15.4)	6,510	138,148 (16.9)	1,890 (14.7)	6,246	118,074 (14.5)

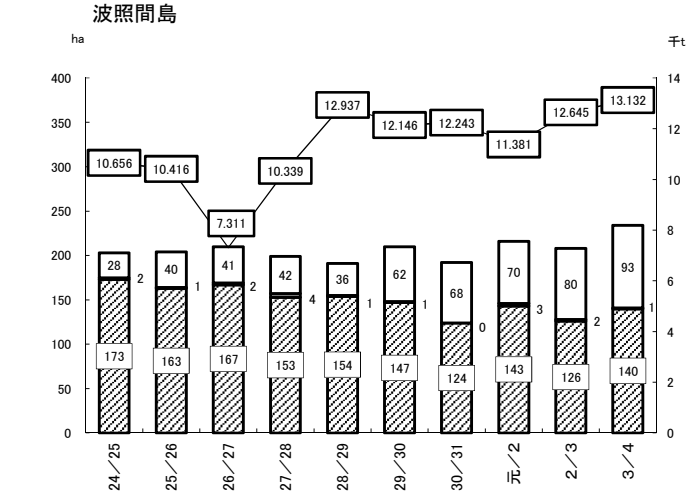
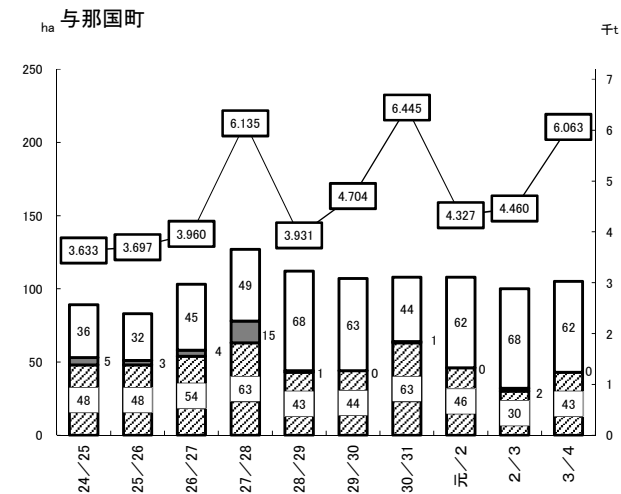
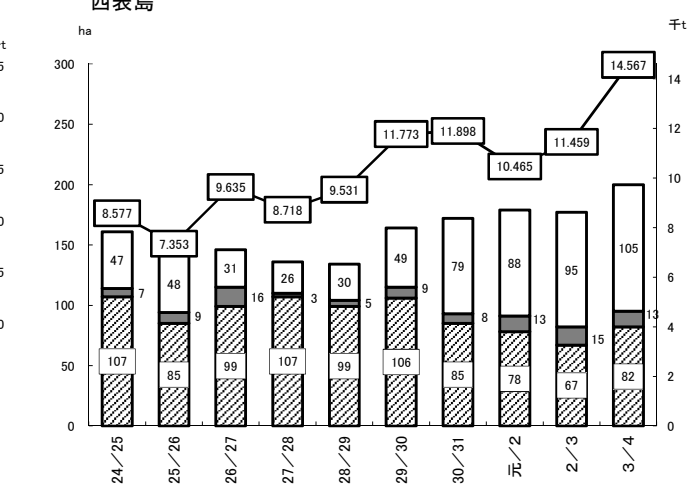
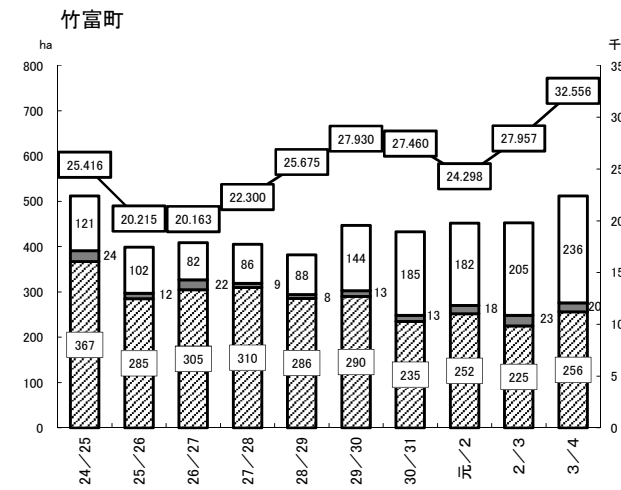
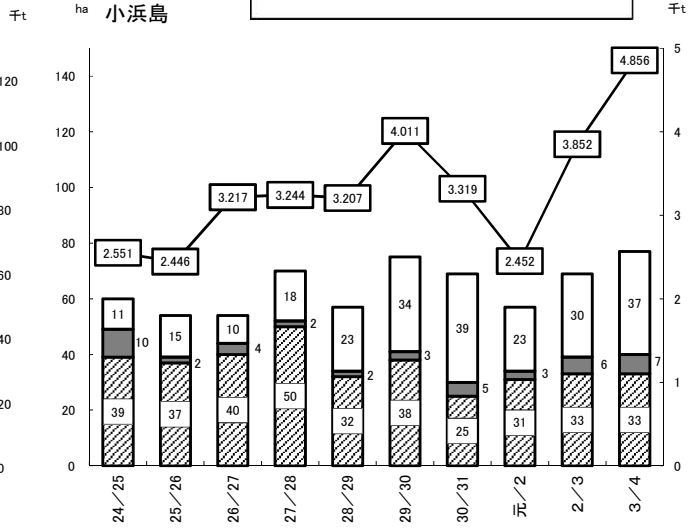
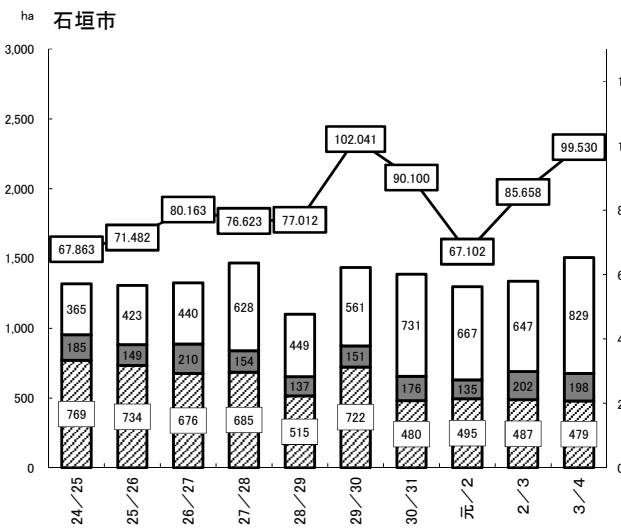
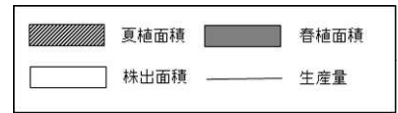
資料：「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和4年8月

注：(斜体)は、作型別では各地域内に対するもので、合計では県計の比率である。四捨五入による端数調整のため合計と内訳が合わない場合がある。

### ○さとうきびの作型別収穫面積、生産量の推移



○地域別の推移



資料:「さとうきび及びびん糖生産実績」 沖縄県農林水産部 令和4年8月

○令和3/4年期 製糖実績

単位: t

工場名	製糖期間			製糖実績			前期(R2/3)実績		
	製糖開始	製糖終了	製糖日数	原料処理量	歩留(%)	産糖量	原料処理量	歩留(%)	産糖量
県計	—	—	—	815,426	11.66	95,072	813,853	11.79	95,928
石垣島製糖	R3.12.2	R4.6.24	204	99,530	11.04	10,991	85,658	12.26	10,498
JA小浜製糖工場	R4.1.12	R4.4.25	105	4,856	7.50	364	3,852	12.35	476
西表糖業	R3.12.2	R4.5.30	173	14,567	9.56	1,392	11,459	13.07	1,498
波照間製糖	R3.12.4	R4.4.26	137	13,132	10.94	1,437	12,645	15.44	1,952
JA与那国製糖工場	R3.12.10	R4.4.13	123	6,063	9.28	563	4,460	10.93	488
八重山計	—	—	—	138,148	9.66	14,747	118,074	12.81	14,912

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和4年8月

○令和3/4年期 さとうきび品質取引実績

工場名	甘蔗糖度(度)			甘蔗糖度区分ごとの重量、比率(t、%)							
				13.0度以下		13.1~13.6		13.7~14.3		14.4度以上	
	平均	最低	最高	重量	比率	重量	比率	重量	比率	重量	比率
県計	15.2	8.2	19.8	36,734	4.5	42,429	5.2	104,502	12.8	631,761	77.5
石垣島製糖	14.1	8.9	18.8	17,722	17.8	13,786	13.9	23,516	23.6	44,505	44.7
JA小浜製糖工場	14.0	9.1	17.5	1,040	21.4	738	15.2	1,140	23.5	1,938	39.9
西表糖業	15.1	9.0	18.0	632	4.3	955	6.6	2,174	14.9	10,806	74.2
波照間製糖	16.3	13.1	18.5	—	—	133	1.0	325	2.5	12,674	96.5
JA与那国製糖工場	12.7	8.2	17.6	3,580	59.0	1,065	17.6	858	14.2	560	9.2
八重山計	14.4	8.2	18.8	22,975	16.6	16,677	12.1	28,013	20.3	70,484	51.0

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」沖縄県農林水産部 令和4年8月

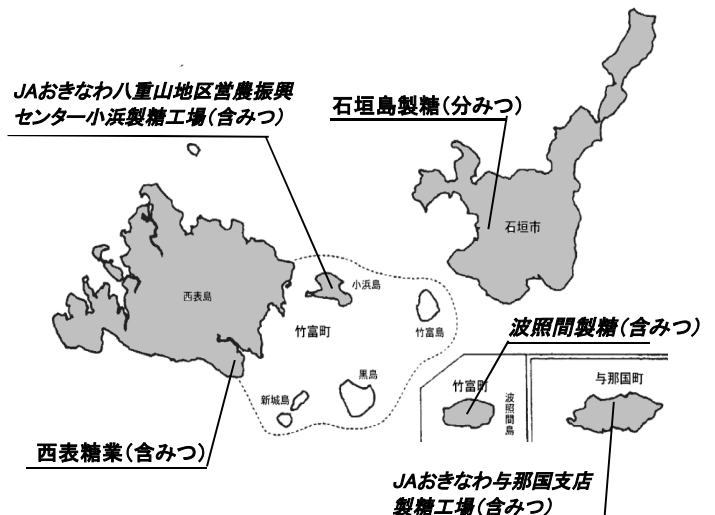
○さとうきび平均農家手取額の推移(円/トン)

年期	分みつ糖(石垣市)		含みつ糖(竹富町)	含みつ糖(与那国町)
	計	甘味資源作物交付金※		
28/29	22,638	16,420	22,123	19,346
29/30	21,953	16,420	20,337	20,738
30/31	22,097	16,630	22,164	20,993
元/2	22,617	16,730	25,048	20,817
2/3	22,771	16,860	22,412	21,131
3/4	23,115	16,860	—	21,628

※基準糖度帯(13.1~14.3度)の単価

資料:「さとうきび及び甘しゅ糖生産実績」「糖業年報」  
沖縄県農林水産部 令和4年8月

八重山地域製糖工場分布図(令和4年10月現在)



## ■ 水稲

八重山地域は、県内稲作の主要産地である。令和3年の水稲作付面積は一期、二期合わせて439haと県全体の65.9%を占め、収穫量は1,390トンと県全体の64.4%を占めている。

一期作の10a当たり収量は357kgで、県平均の355kgよりやや高い。二期作は9月上旬までの植え付けのため台風被害を受ける可能性が高く、収量・歩留まりが低い等の理由により、近年では一期作の3割程度の作付となっている。

温暖な気候を活かし、一期作は6月に新米を出荷できる「超早場米」として、他の産地より有利販売が可能である。主要品種は食味に優れた「ひとめぼれ」が生産されており、西表地区では平成26年二期作より、低アミロース品種である「ミルキーサマー」の栽培に取り組んでおり、ブランド化が期待される。消費者の食の安全性への関心の高まりもあり、エコファーマー認定、特別栽培農産物の認証を受けるなど、多様な消費者ニーズに対応した米作りが行われている。



田植前の風景



主要品種:ひとめぼれ

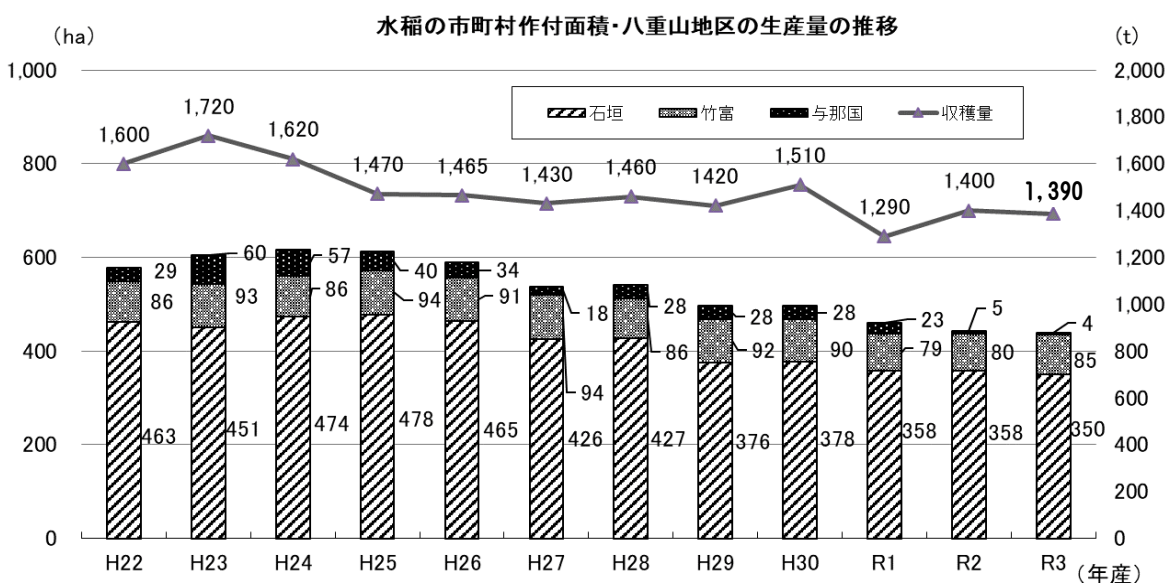
### ○令和3年産水稲の生産実績

	作付面積(ha)			10aあたり収量(kg)			収穫量(t)		
	計	1期作	2期作	平均	1期作	2期作	計	1期作	2期作
県計	686	481	185	325	355	248	2,160	1,710	459
石垣市	350	264	86	317	365	169	1,110	965	145
竹富町	85	67	18	310	328	242	264	220	44
与那国町	4	4	-	281	281	-	12	12	-
八重山計	439 (65.9)	336 (69.9)	103 (55.7)	316	357	182	1,390 (64.4)	1,200 (70.2)	187 (40.8)

資料:第50次沖縄農林水産統計年報

注:斜体は県計に占める割合

### ○水稲の作付面積と生産量の推移



資料:第50次沖縄農林水産統計年報



### (3) 野菜

八重山地域の野菜生産は、平成5年のウリミバエ根絶を契機に、温暖な気候特性を活かした冬春期の県外市場への端境期出荷を中心に進展してきた。近年はオクラ、かぼちゃ、ゴーヤー、さやいんげん等が県外へ出荷されており、令和3年度のJAおきなわ八重山地区営農振興センターの上記4品目の出荷実績は約226t、179,636千円となっている。JA系統外ではピーマンやきゅうりの出荷も増加している。平成18年に石垣市のオクラが、平成26年に竹富町のかぼちゃが拠点産地に認定され、生産部会と産地協議会を中心に、生産性向上と八重山ブランドの確立に向けて取り組んでいる。

また平成23年にはJAファーマーズマーケット「ゆらていく市場」が開設され、より新鮮で多様な野菜の地域内への供給が可能になった。令和3年度の野菜類の委託販売額は165,713千円で、地産地消の推進と地域経済の活性化に大きく寄与している。

#### 令和3年産主要出荷品目の栽培面積と県外出荷量

品目	かぼちゃ			ゴーヤー	さやいんげん
	オクラ	石垣市	竹富町		
産地	石垣市	石垣市	竹富町	石垣市	石垣市
栽培面積(ha)	10.1	10.4	9.7	2.3	0.3
出荷量(t)	105.6	35.5	57.0	40.4	2.8

※JAおきなわ八重山地区営農振興センター取扱量(令和3年4月～令和4年3月。但しかぼちゃは令和4年1月～6月)



オクラ



かぼちゃ



ゴーヤー



さやいんげん

### (4) 果樹

主要品目のマンゴーは、近年リース事業の導入等で栽培面積が増加しており、令和2年では結果樹面積28ha、収穫量196tとなっている。その多くが個撰個販で、樹上完熟させた高品質の果実を宅配便等を利用して消費者に直接届けている。平成20年に発足した八重山マンゴー研究会では、技術向上のための勉強会や現地視察が定期的で開催され、収量や品質が向上している。平成25年にはJAマンゴー部会も設立され、全員がエコファーマー認定を受けるなど独自の取組を進めている。他にもバナナ、パイナップル、ドラゴンフルーツ(ピタヤ)、パッションフルーツといった多様な熱帯果樹が栽培されている。



マンゴー栽培状況

#### 八重山圏域主要果樹(パイナップルを除く)の生産の推移

単位: ha、t

	バナナ			パイナップル			マンゴー		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成28年		41	41		6	6	26	132	126
平成29年	6	40	40	1	6	6	27	216	216
平成30年	6	38	38	1	5	5	26	153	153
令和元年	6	41	41	1	6	6	31	180	179
令和2年	6	41	40	1	6	6	28	196	196

	ドラゴンフルーツ			パッションフルーツ		
	結果樹面積	収穫量	出荷量	結果樹面積	収穫量	出荷量
平成28年	2	28	28	3	11	11
平成29年	2	29	29	3	11	11
平成30年	2	29	29	3	10	10
令和元年	2	29	29	3	11	11
令和2年	2	29	29	3	11	11

資料:「沖縄県の園芸・流通」沖縄県農林水産部

(5) パインアップル

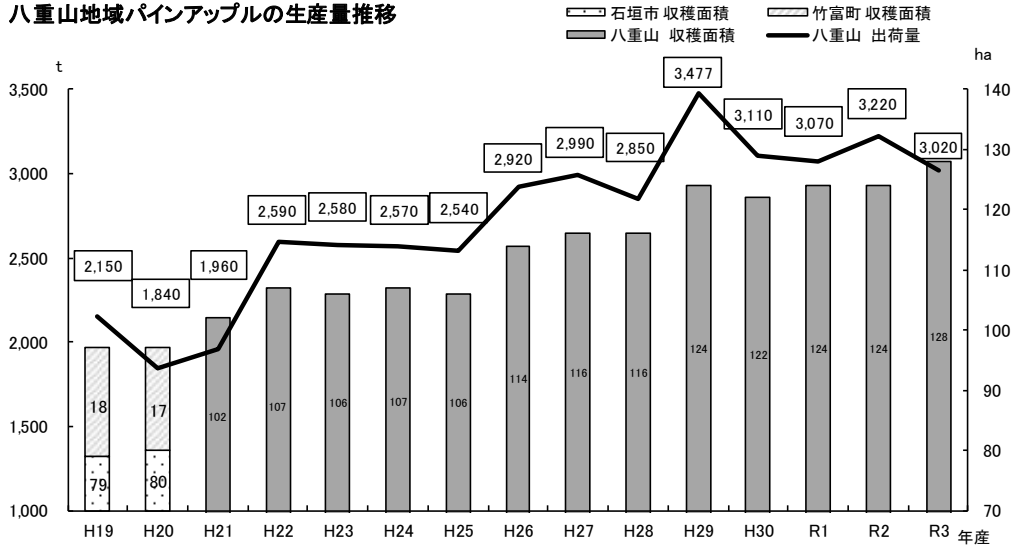
八重山産（主に石垣島、西表島）パインアップルは加工場の閉鎖により一時衰退傾向であった。しかしながら、近年は生食用パインアップルの需要の増加に合わせ、栽培面積、出荷量ともに増加し、平成29年以降は3千トンを上回った生産が続いている。県内生産に占める八重山産の割合は、収穫面積で41.6%、出荷量で44.7%であり、その大半が生食向けである。栽培品種はボゴール、ソフトタッチ（ピーチパイン）、ハワイ種（N67-10等）が主であるが、品種の育成も進み、ジュリオスター、ゴールドバレル、沖農P17（商標名：サンドルチェ）、沖農P19（商標名：ホワイトココ）といった新品种の種苗が徐々に供給され、品種構成が多様化している。

令和3年産パインアップル生産状況

	収穫面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	出荷量(t)		
				計	生食向け	加工向け
県計	308	2,270	6,990	6,750	4,630	2,120
沖縄本島	178	2,110	3,760	3,690	1,730	1,960
八重山 <i>(41.6)</i>	128 <i>(41.6)</i>	2,490	3,190 <i>(45.6)</i>	3,020 <i>(44.7)</i>	2,870 <i>(62.0)</i>	157 <i>(7.4)</i>

注：(斜体)は県計に占める割合

八重山地域パインアップルの生産量推移



資料：「沖縄県の園芸・流通」沖縄県農林水産部 注：平成21年産以降、市町村別は公表されていない

「沖縄県のパインアップルの栽培面積・収穫面積・10a当たり収量・収穫量・出荷量の推移」農林水産省

パインアップル主要品種の特徴

N67-10(ハワイ種、ジュワリーパイン)	ボゴール(ボコットパイン)	ソフトタッチ(ピーチパイン)
 <p>【収穫時期】6月～8月 【果実重】約1,200g 【果形】たる型 【果肉色】黄白色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は16度、酸度は0.7% 甘酸っぱい食味で、果汁が豊富</p> <p>【栽培特性】 吸芽発生が悪いため、2回目収穫が難しい。高温期の花芽誘導処理が効きにくい。</p> <p>【その他】 加工生食兼用。 沖縄県の主要栽培品種。</p>	 <p>【収穫時期】4月～7月 【果実重】約1,000g 【果形】たる型 【果肉色】黄色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は20度、酸度は0.6% 果汁は少ないが、糖度が高く、甘みを強く感じる。</p> <p>【栽培特性】 栄養芽発生が良いため、挿付苗の確保や2回目収穫が容易。草本や冠葉にダメージがある。</p> <p>【その他】 石垣島の主要栽培品種。 小果腐敗病が発生しやすい。</p>	 <p>【収穫時期】4月～7月 【果実重】約900g 【果形】たる型 【果肉色】帯黄白色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は19度、酸度は0.7% 桃のような独特の香りがあり、さわやかな食味が特徴。</p> <p>【栽培特性】 栄養芽発生が良いため、挿付苗の確保や2回目収穫が容易。 芯腐れ症状が発生しやすい。</p> <p>【その他】 西表島の主要栽培品種 小果腐敗病が発生しやすい。</p>
ゴールドバレル	沖農P17(サンドルチェ)	沖農P19(ホワイトココ)
 <p>【収穫時期】5月～7月 【果実重】約1,400g 【果形】円筒形 【果肉色】黄白色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は16.5度、酸度0.9% 糖酸比が高く、果肉も柔らかい。</p> <p>【栽培特性】 挿付苗確保が難しく、生育も遅いため、栽培が難しい。 2回目収穫も難しい。</p> <p>【その他】 県産パインで最も高価格で販売されている品種。</p>	 <p>【収穫時期】5月～11月 【果実重】約1,000g 【果形】たる型～円筒形 【果肉色】黄白色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は21度、酸度は0.6% 極高糖で食味が良いのが特徴。</p> <p>【栽培特性】 葉や果実の耐湿性が強い。 萎凋症状が発生しやすい。</p> <p>【その他】 促進度実および自然実での果実障害発生が少ない。</p>	 <p>【収穫時期】5月～8月 【果実重】約1,300g 【果形】たる型 【果肉色】白色 【果汁品質(自然実)】、食味 糖度は18度、酸度0.5% ココナツのような香りで、果肉も柔らかく、非常に美味。</p> <p>【栽培特性】 挿付苗確保が容易で、生育旺盛のため栽培しやすい。 2回目収穫でも大果となる。</p> <p>【その他】 令和3年に品種登録された新品种。</p>

\*括弧内の名称は各品種の商標名や愛称を示す。

資料提供：農業研究センター石垣支所

(6) 花き

八重山圏域の花き生産は、温暖な気候を活かし、レッドジンジャー、ヘリコニア、洋ラン、切葉類等の夏季県外出荷品目を中心に取り組まれている。令和2年の花き栽培面積は10.9haで、切り花類の出荷数量が60.1万本であり、出荷数量は前年よりも減少した。

石垣市はヘリコニア、レッドジンジャーの県内有数の産地であり、平成19年に拠点産地に認定された。品質の高さは市場からも高い評価を得ている。洋ランは、デンファレを中心とした施設栽培が行われ、島内需要も高い。

平成25年3月の新石垣空港の開港に伴い、「南国の花でいっぱいの石垣島」を観光客へPRしている。

八重山圏域花き類生産実績の推移

単位：a、千本、千円

種類名	H28年産			H29年産			H30年産			R1年産			R2年産		
	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額	作付面積	出荷数量	出荷額
デンファレ	2	38	1,919	2	38	1,919	95	46	2,162	125	17	1,700	125	16	1,550
洋ラン類小計	2	38	1,919	2	38	1,919	95	46	2,162	125	17	1,700	125	16	1,550
ストレチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘリコニア	447	1,032	28,350	447	883	25,879	447	852	25,756	194	297	9,263	206	252	7,099
レッドジンジャー類	387	306	21,368	387	325	22,708	387	311	21,535	465	160	15,853	440	124	13,553
ウイキョウ	50	72	3,613	26	32	1,657	26	30	1,567	47	27	1,731	47	24	1,500
一年草・多年草小計	884	1,410	53,331	860	1,240	50,244	860	1,193	48,858	706	484	26,847	693	400	22,152
アレカヤシ	28	10	35	40	23	81	40	22	75	0	0	0	0	0	0
ドラセナ類	148	247	9,750	132	185	7,414	132	176	7,211	111	129	5,894	182	123	5,884
タニワタリ	10	4	68	12	9	151	12	9	154	7	9	405	7	8	351
オクラレルカ	3	3	65	1	1	20	1	1	20	0	1	12	0	1	12
糸芭蕉	50	9	286	26	5	167	26	5	164	5	2	167	5	2	167
その他葉もの	77	55	984	62	51	933	62	53	961	105	66	3,657	80	51	2,568
葉もの小計	316	328	11,188	273	274	8,766	273	266	8,585	228	207	10,135	274	185	8,982
クルクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アマゾンリリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球根切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他切花類小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①切花類 計	1,202	1,776	66,438	1,135	1,552	60,929	1,228	1,505	59,605	1,059	708	38,682	1,092	601	32,684
②鉢物類計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(①+②)	1,202	1,776	66,438	1,135	1,552	60,929	1,228	1,505	59,605	1,059	708	38,682	1,092	601	32,684

資料：「沖縄県の園芸・流通」 沖縄県農林水産部 令和5年1月



ヘリコニア栽培状況



レッドジンジャー栽培状況





(7) 葉たばこ

八重山（石垣市）の令和4年産葉たばこの収穫量は61tとなっており、前年123tと比較して50%（62t）の減少となっており、生産額も114,901千円で前年の225,066千円と比較して49%（110,165千円）減少している。過去直近3年平均との比較は、収穫量は約46%（53t）減、生産額も48%（106,338千円）の減少となっている。



葉たばこ栽培状況（石垣市）

令和4年度葉たばこの生産状況

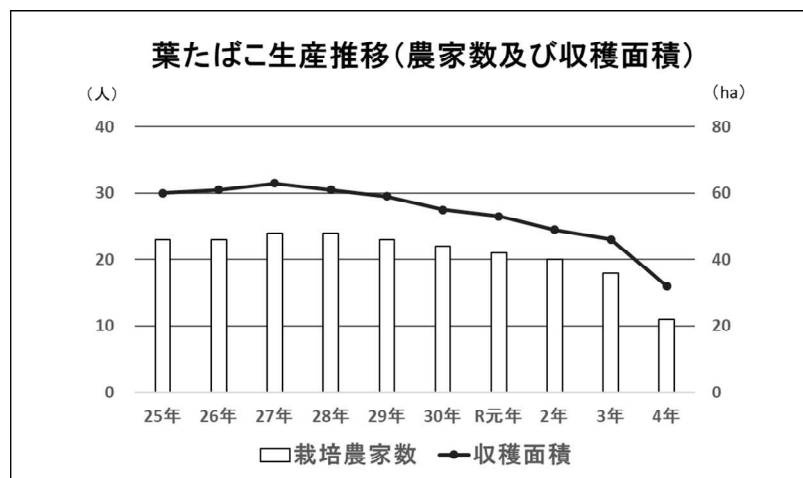
地域別	項目	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
県	計	(100.0%) 132	(100.0%) 518	(100.0%) 800	154	2,034	(100.0%) 1,627,355
八重山 (石垣市)		(8.3%) 11	(6.2%) 32	(7.6%) 61	190	1,887	(7.1%) 114,901
宮古島市		(50.0%) 66	(52.2%) 271	(46.3%) 370	137	2,031	(46.2%) 752,284
多良間村		(5.3%) 7	(3.3%) 17	(2.9%) 23	137	1,977	(2.8%) 45,845
本島 (伊江島・久米島含む)		(36.4%) 48	(38.4%) 199	(43.2%) 345	174	2,068	(43.9%) 714,324

資料：沖縄県糖業農産課

葉たばこの生産の推移(石垣市)

年次	項目	栽培農家数 (人)	収穫面積 (ha)	収穫量 (t)	10a当たり 収量(kg)	1kg当たり 平均価格(円)	生産額 (千円)
25年		23	60	120	199	2,090	250,851
26年		23	61	132	218	1,991	263,719
27年		24	63	91	146	2,137	195,361
28年		24	61	121	198	2,003	241,726
29年		23	59	133	244	1,824	242,001
30年		22	55	135	244	1,702	229,450
R元年		21	53	120	224	1,952	233,286
2年		20	49	98	201	2,102	205,365
3年		18	46	123	270	1,824	225,066
4年		11	32	61	190	1,887	114,901

資料：沖縄県糖業農産課



## (8)かんしょ

石垣市では、平成19年に石垣市甘しょ産地協議会が発足し、石垣島甘しょ生産組合を中心に生産者の組織強化や品種の選定などが取り組まれた。平成29年3月に生産組合が石垣市甘しょ生産組合として再結成され、同年5月に石垣市は県奨励品種の紅イモ「沖夢紫」等のかんしょを対象品目とした拠点産地に認定された。平成29年8月に民間企業の新加工施設が整備され現在まで生産が拡大していた。しかしながら、新型コロナウイルスの影響による観光客の減少に伴い、加工品販売が激減した。そのため作付面積が調整され、令和3年度は栽培面積8.0ha(対前年比25%)、収穫量64t(対前年比16%)と減少し、単収は0.8tとなった。このような状況の中、加工用ペースト以外の販路(青果やカット)も少しずつ増加しており、来年度以降は改めて生産拡大が見込まれる。



かんしょ「沖夢紫」の栽培状況とかんしょの選果機

### 石垣市かんしょ生産実績の推移

	H29	H30	R1	R2	R3
栽培面積(ha)	12.0	17.5	27.9	32.3	8.0
生産量(t)	121	199	306	402	64
単収(t/10a)	1.0	1.1	1.1	1.2	0.8

資料:石垣市農政経済課

## (9) ボタンボウフウ(長命草)

日本の最西端に位置する与那国島では、古くから祭事の供え物として用いられてきたボタンボウフウ(長命草)を平成16年から9戸の農家で経済栽培を開始し、平成18年3月には薬用作物部門で拠点産地認定を受けた。

平成20年に農業生産法人が設立された後、平成22年には与那国島長命草生産組合が結成されたことに加え、栽培から乾燥作業までの工程を島内で行う生産加工体制が整ったことにより、生産量も拠点産地認定後から約6倍(平成18年度生産量を基準)まで増加し、ボタンボウフウの一大産地となっている。

なお、農業生産法人と農家間の契約栽培は終了し、令和3年度以降は農業生産法人による自社生産へと転換している。



ボタンボウフウの栽培状況

### 与那国町ボタンボウフウ生産実績の推移

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
生産農家戸数(戸)	60	60	60	25	1
栽培面積(ha)	22	22	22	7	2.2
生葉生産量(t)	373	370	350	160	14

資料:与那国町役場産業振興課

### 3 畜 産

- (1) 当地域の畜産は、恵まれた亜熱帯気候と広大な草地面積の確保により、農業算出額の約60%を占める基幹産業として順調に発展している。  
特に肉用牛は国内外からの旺盛な食肉需要を反映して産出額が好調に推移している。石垣牛は観光客への人気も高く、平成20年にはJAおきなわの「石垣牛」が、特許庁より地域団体商標(地域ブランド)を取得しており、令和3年度のJA石垣牛販売実績は741頭、約9億円であった。令和3年3月に(株)八重山食肉センターは、牛と畜解体、内臓処理、部分肉加工の部門で製品の安全性を確保する管理手法HACCPの認証を受けており、今後も海外輸出向けHACCP等の認定・認証取得を目指している。
- (2) 令和3年の沖縄県の農業産出額は922億円となっており、うち畜産部門は420億円で約46%を占めている。畜産部門は前年に比べ23億円増加しており、特に肉用牛において、新型コロナウイルス感染拡大による需要減退した前年度でより回復傾向にある。畜産部門の構成比は、肉用牛50% (209億円)、豚27% (114億円)、その他畜産23% (97億円) となっている。
- (3) 肉用牛の流通面においては、指定市場の八重山家畜市場(石垣市)と黒島家畜市場(竹富町黒島)の2市場で生体取引が行われ、取引される子牛は九州地方を中心に県外へと移出されている。令和3年度の取引実績は八重山家畜市場が8,504頭、黒島家畜市場が926頭であった。八重山地域で生産される牛は、粗飼料の利用性や発育性に優れ、今日の和牛に求められている高い産肉能力と良好な肉質を兼ね備えた肥育素牛として高く評価されている。
- (4) 当地域には多くの未利用地・低利用地があったことから、昭和51年から大型畜産基地建設事業が実施され大規模な草地基盤の整備が図られてきた。平成5年度から21年度まで畜産基盤再編総合整備事業(旧公社営畜産基地建設事業)を実施した。  
また、平成25年度から28年度まで畜産担い手育成総合整備事業の「やいま地区(石垣市)」において新たに100頭規模の肥育牛舎等を整備した。さらに竹富町において、平成29年度から「サミン地区」、平成30年度から「美ら島地区」をいずれも7年計画で整備する。
- (5) 家畜防疫衛生については、管内では法定伝染病である牛バベシア病を媒介するオウシマダニが過去、広域に生息しており、肉用牛振興の大きな生産阻害要因となっていた。そのため昭和46年以降、国庫補助による沖縄牧野ダニ撲滅対策事業等の長期かつ大規模な防除対策が展開され、平成8年には悲願であったオウシマダニの完全撲滅が達成された。その成果として、肉用牛の飼養頭数は右肩上がりに増頭に転じ、県内一の肥育素牛供給産地となった。  
また、令和2年1月、本島中部にて県内33年ぶりとなる豚熱が発生した。続発により7例の発生と関連施設10農場で防疫措置が実施され、12,381頭が殺処分される事態となった。特定家畜伝染病である口蹄疫や豚熱・アフリカ豚熱は、近隣諸国で散発的な発生が確認されており、これらの発生国からのクルーズ船や定期便、チャーター便は、現在、世界的な新型コロナ感染症の拡大を受け寄港が停止しているものの、その再開にあたっては家畜伝染病の侵入リスクが高まることから、引き続き初動対応も含めた危機管理体制を強化する。
- (6) 養豚農家の種豚改良を図るため、優良種豚が本島より導入されてきたが、本島での豚熱発生に伴うワクチン接種によりワクチン未接種地域の離島においては、本島からの豚導入が不可能となり、県外からの導入コストが課題となっていたが、令和3年度より県外から本島まで輸送費補助が実施されている。令和2年7月にばいぬしま養豚振興協議会が発足し、当該事業をとおして養豚生産者の課題を把握し、経営安定と地元産豚肉消費拡大、伝染病防疫対策の連携強化等の活動により、今後の養豚業の振興を図っていく。
- (7) 八重山地区での令和3年度の県種雄牛人工授精用凍結精液の払い下げ本数は、3,297本で多くの八重山地域の子牛の種牛として使用されている。今後も県種雄牛の凍結精液を使った優良な子牛、枝肉の生産が期待される。
- (8) 畜産分野の表彰事例として、令和4年10月に開催された第12回全国和牛能力共進会において、竹富町の下地牧場の出品牛「しもじ51」が第2区(若雌の1)で沖縄県歴代最高の優秀賞4席を受賞した。また、令和4年10~11月に開催された第48回沖縄県畜産共進会肉用牛部門において、若雌第2類で石垣市の(農・株)幸和畜産の出品牛「ゆりこ」が優秀賞第1席および県知事賞を受賞した。肉牛部門においては、ヤイマ・ブリーダー・ランチが出品した県種雄牛の「北百合平」産子の枝肉が、脂肪の質賞を受賞した。



今後期待される県種雄牛(畜産研究センター)



名号「美百合」(父:百合白清2)  
サシ・ロース芯・歩留基準値のゲノム育種価No. 1  
気高系統



名号「百合安清」(父:百合白清2)  
沖縄県の現場後代検定歴代最高成績を樹立(平均  
BMSNo.9.1)



名号「百合北」(父:百合茂)  
第12回全国和牛能力共進会(令和4年)の代表牛  
脂肪の質の改良が期待される  
気高系統



名号「北百合平」(竹富島産・父:北福波)  
第12回全国和牛能力共進会(令和4年)の代表牛  
枝肉重量の改良が期待される  
糸桜系統



名号「茂北福」(父:北福波)  
高いゲノム育種価と現場検定成績  
糸桜系統



名号「福福波」(父:北福波)  
良好な枝肉成績  
糸桜系統

### 令和3年末 主要家畜の飼養状況

単位:戸、頭、羽

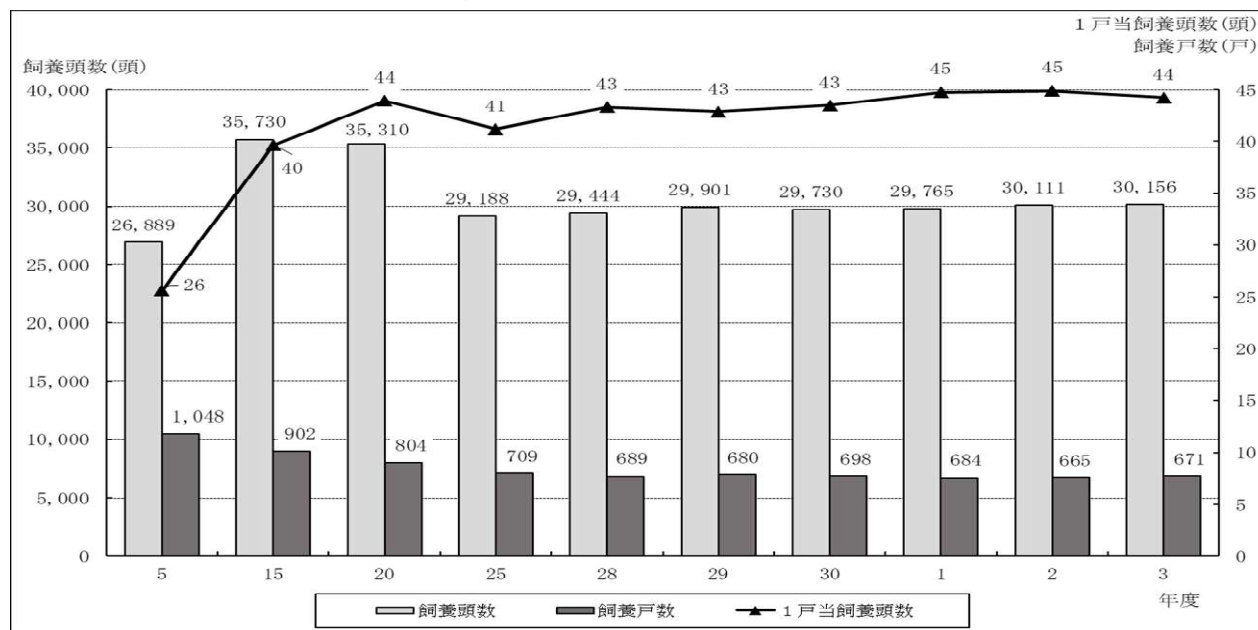
項目 地域別	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち		
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数	
県計	100%	95%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	2,263	73,062	61	4,070	231	200,830	286	1,377,869	19	459,220	111	629	1,273	10,776	1,110	26,816	
八重山計	30.1%	41.3%	8.2%	4.5%	6.9%	0.5%	21.3%	2.2%	10.5%	0.2%	46.8%	55.5%	16.2%	18.2%	5.1%	3.1%	
	682	30,156	5	185	16	1,064	61	30,236	2	900	52	349	206	1,966	57	835	
	石垣市	497	23,400	5	185	12	1,040	25	29,565	2	900	23	108	102	1,218	47	748
	竹富町	142	5,917	0	0	2	18	27	283	0	0	14	22	84	614	9	67
	与那国町	43	839	0	0	2	6	9	388	0	0	15	219	20	134	1	20
宮古	30.8%	17.4%	1.6%	0.0%	5.2%	0.3%	12.6%	2.4%	0.0%	0.0%	7.2%	8.6%	14.8%	14.3%	5.6%	4.1%	
	697	12,738	1	2	12	577	36	33,082	0	0	8	54	188	1,543	62	1,102	
本島	25.9%	21.9%	78.7%	81.9%	54.1%	46.4%	32.2%	57.0%	5.3%	0.7%	21.6%	19.1%	32.3%	33.8%	39.9%	33.9%	
	585	15,993	48	3,335	125	93,150	92	785,949	1	3,000	24	120	411	3,645	443	9,097	
北部	13.0%	14.8%	11.5%	13.5%	33.8%	52.8%	33.9%	38.4%	84.2%	99.2%	24.3%	16.9%	36.8%	33.6%	49.4%	58.9%	
	294	10,830	7	548	78	106,039	97	528,602	16	455,320	27	106	468	3,622	548	15,782	

### 八重山圏域における主要家畜の飼養頭羽数の推移

単位:戸、頭、羽

項目 年度	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		馬		山羊		みつばち	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養羽数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養群数
平成10年度	961	36,140	4	376	18	6,395	45	59,128	-	-	74	391	162	1,177	-	-
平成20年度	804	35,310	7	218	12	3,532	48	55,089	1	800	54	353	118	822	4	35
平成30年度	684	29,730	7	230	16	5,197	43	41,645	3	2,215	52	287	220	1,920	32	371
令和元年度	665	29,765	6	221	14	3,771	36	33,650	2	2,000	52	285	196	2,037	23	347
令和2年度	671	30,111	6	201	24	1,193	45	36,380	2	1,300	52	321	204	2,112	50	613
令和3年度	682	30,156	5	185	16	1,064	61	30,236	2	900	52	349	206	1,966	57	835

### 八重山圏域における肉用牛飼養頭数の推移





肉用牛飼養規模別農家数(令和3年末)

区分 市町名	1頭		2～9頭		10～19頭		20～29頭		30～39頭	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	1	1	99	587	108	1,573	87	2,081	51	1,766
竹富町	1	1	19	107	24	359	30	756	19	662
与那国町	3	3	18	84	12	164	3	74	2	69
合計	5	5	136	778	144	2,096	120	2,911	72	2,497

区分 市町名	40～49頭		50～99頭		100頭以上		計	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
石垣市	21	932	82	5,587	48	10,896	497	23,423
竹富町	12	532	26	1,727	11	1,773	142	5,917
与那国町	2	82	2	158	1	205	43	839
合計	35	1,546	110	7,472	60	12,874	682	30,179

(肥育用乳用種以外)

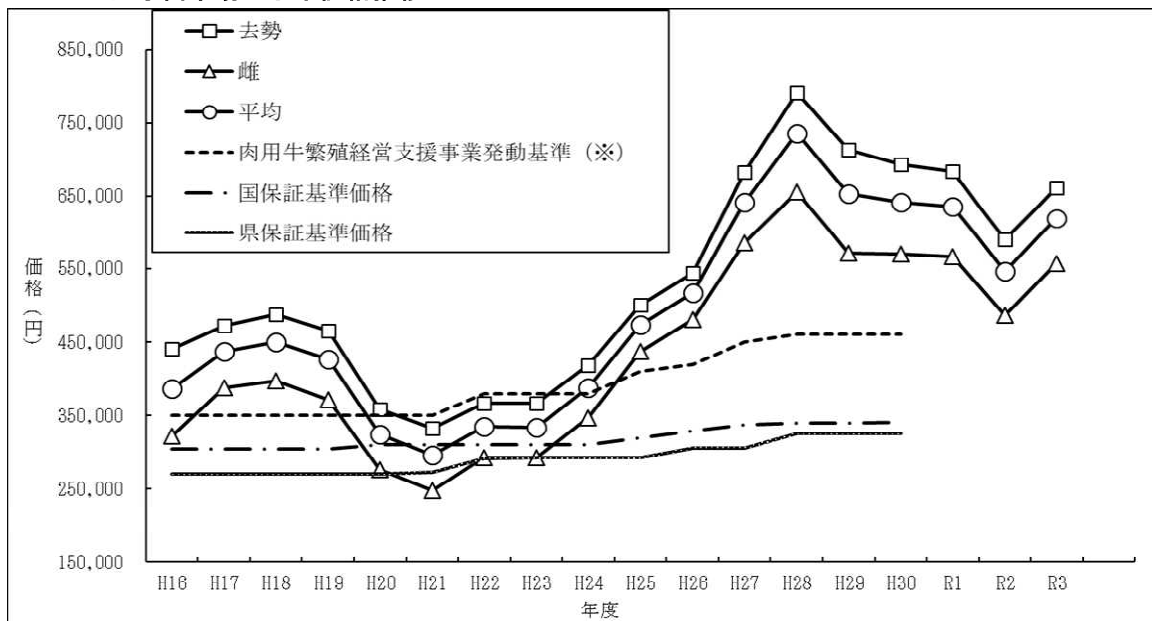
子牛のセリ市場実績(八重山、黒島合計)

年	項目 開場回数	上場 頭数	成立頭数		売上金額 (千円)	1頭当 平均体重 (kg)	1頭当 平均価格 (千円)	生体1kg 当単価 (円)
			去勢	雌				
平成20年	18	9,823	5,612	3,992	3,081,391	260	321	1,235
平成25年	18	9,205	5,271	3,921	4,182,530	256	455	1,775
平成26年	18	8,750	5,082	3,668	4,525,622	255	517	2,028
平成27年	18	8,862	5,100	3,762	5,410,058	260	610	2,452
平成28年	18	8,848	5,208	3,640	6,509,982	264	736	2,794
平成29年	18	8,990	5,261	3,729	5,866,229	267	653	2,444
平成30年	18	8,848	5,167	3,681	5,677,524	269	642	2,381
令和元年	18	9,089	5,262	3,748	5,718,732	269	635	2,355
令和2年	18	9,216	5,285	3,801	4,954,378	274	545	1,985
令和3年	18	9,430	5,384	3,687	5,607,232	278	618	2,227

※平成20～23までは年次、24年以降は年度集計

資料:八重山家畜保健衛生所

八重山家畜市場の子牛価格推移



資料:八重山家畜保健衛生所

※平成21年度までは子牛生産拡大奨励事業  
平成23年以前は年次、24年以降は年度値  
平成30年12月事業終了

#### 4 農業・畜産生産振興事業

##### (1) 経営構造対策（特定地域経営支援対策事業）

単位：千円

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	受益地区	総事業費
R2	石垣市	沖縄県農業協同組合	果樹温室 6,432㎡	石垣第8地区	100,427
		沖縄県農業協同組合	さとうきび収穫機械一式	大浜第二地区	55,165
R3	石垣市	有限会社 平安名	農畜産物集出荷貯蔵施設	名蔵地区	232,266
		沖縄県農業協同組合	トラクター等一式	石垣南第2地区	45,549
R4	石垣市	沖縄県農業協同組合	野菜温室 7,560㎡	石垣南第3地区	95,323
		沖縄県農業協同組合	さとうきび収穫機械等一式	石垣南第3地区	55,231

##### (2) 野菜振興対策

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
------	----------	------	------	------	------

##### ア. 沖縄県農業生産・経営対策事業

R1	竹富町	竹富町	栽培講習会、 現地検討会（島内圃場）	かぼちゃ	546
				ばれいしょ	113
R2	竹富町	竹富町	栽培講習会、 現地検討会（島内圃場）	かぼちゃ	547
				ばれいしょ	103
R3	石垣市	JAおきなわ八重山地区営農振興センター	実証展示ほ・現地検討会の実施	オクラ	878
	竹富町	竹富町	実証、試験の実施	かぼちゃ ばれいしょ	739 178

##### イ. 沖縄県園芸作物生産振興対策事業

27	竹富町	竹富町馬鈴薯生産組合	ばれいしょ選別機	ばれいしょ	1,422
30	竹富町	沖縄県農業協同組合	かぼちゃ選別機	かぼちゃ	3,246

##### (3) 果樹振興対策（沖縄県農業生産・経営対策事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
27	石垣市（名蔵地区）	石垣市	種苗圃設置委託等	パインアップル	176
	竹富町（西表地区）	竹富町	技術の普及（栽培技術講習会）等	パインアップル	340

##### (4) 花き振興対策（自然災害に強い設備事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	対象作物	総事業費
25	石垣市	赤石花卉生産組合	施設補強	レッドジンジャー	8,537

##### (5) 糖業対策（沖縄県さとうきび安定生産確立対策事業）

実施年度	市町村（地区名）	事業主体	事業内容	受益地区	総事業費
29	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	石垣地区	59,648
	竹富町	沖縄県農業協同組合	小型ハーベスター、収納袋	波照間地区	59,285
			小型ハーベスター、収納袋	小浜地区	39,780
30	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	大川地区	59,467
		沖縄県農業協同組合	大型株出管理機（4台）	宮良・白保・川平・平久保地区	12,518
	竹富町	沖縄県農業協同組合	中型ハーベスター、収納袋	西表大富・古見地区	59,467
R1	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	登野城(1)地区	60,283
			中型ハーベスター、収納袋	平得地区	60,283
			中型ハーベスター、収納袋	伊野田(2)地区	60,283
			トラクター、リバーシブルプラウ、ロータリー、ブームプレー	石垣地区	19,241
R3	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	白保(2-2)地区	55,818
	竹富町	沖縄県農業協同組合	全茎式プランター、ブームスプレイヤー	西表島大原	7,900
			小型ハーベスター、収納袋	嘉田地区	41,949
R4	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	白保(2-1)地区	56,687
	石垣市	(一財) 石垣市農業開発組合	中型ハーベスター、収納袋	新川(2)地区	57,241
	石垣市	沖縄県農業協同組合	株出管理機2台	平得・新川地区	7,265

(6) 八重山地域畜産基地建設実施状況

	区域名	工事期間 所在地	主要事業	事業費 (百万円)	類型別経営体数	家畜飼養頭数(目標)
1	公団営 石垣第一	昭和51～昭和54 石垣市	草地造成 291 ha 畜舎 33 棟 農機具導入 175 台 家畜導入 492 頭	3,270	肉用牛公共牧場 1 肉用牛牧場 10 肉用牛牧場、養豚場 2 養豚場 1 計 14	肉用牛 3,024 頭 豚 1,676 頭
2	公団営 石垣第二	昭和55～昭和58 石垣市	草地造成 290 ha 畜舎 52 棟 農機具導入 320 台 家畜導入 610 頭	7,425	肉用牛牧場 12 肥育センター 1 肉用牛繁殖、養豚場 2 養豚場 4 養鶏場 2 酪農場 1 食肉センター 1 計 23	肉用牛 3,296 頭 乳用牛 318 頭 豚 6,249 頭 採卵鶏 47,828 羽
3	公団営 八重山第一	昭和59～昭和62 石垣市・竹富町	草地造成 250 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 182 台 家畜導入 210 頭	4,539	肉用牛牧場 12 養豚場 5 養鶏場 1 食肉センター 1 計 19	肉用牛 2,031 頭 豚 1,874 頭 採卵鶏 20,210 羽
4	公団営 与那国	昭和61～平成3 与那国町	草地造成 193 ha 畜舎 28 棟 農機具導入 209 台 家畜導入 18 頭	3,746	肉用牛牧場 33 養豚場 1 家畜市場 1 計 35	肉用牛 2,453 頭 豚 419 頭 馬 33 頭
5	公団営 八重山第二	昭和63～平成4 石垣市・竹富町	草地造成 238 ha 畜舎 4 棟 農機具導入 118 台	3,190	肉用牛牧場 23 養豚 1 家畜市場 2 計 26	肉用牛 2,945 頭 豚 690 頭
6	公社営 竹富町第一	平成5～平成9 竹富町 (黒島)	草地造成 111 ha 畜舎 17 棟 農機具導入 41 台	1,392	肉用牛牧場 18 計 18	肉用牛 617 頭
7	公社営 ばいぬしま	平成10～12年 竹富町 (竹富島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 54 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 85 台	1,456	肉用牛牧場 21 家畜市場 1 計 22	肉用牛 1,571 頭
8	公社営 竹富町第二	平成10～13年 竹富町 (黒島)	草地造成 118 ha 畜舎 19 棟 農機具導入 51 台	1,550	肉用牛牧場 22 計 22	肉用牛 2,474 頭
9	公社営 ばいぬしま 第二	平成15～18年 竹富町 (黒島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 92 ha 畜舎 12 棟 農機具導入 79 台	1,750	肉用牛牧場 27 家畜市場 1 計 28	肉用牛 2,450 頭
10	公社営 ばいぬしま 第三	平成19～21年 竹富町 (黒島・西表島 小浜島・波照間島)	草地造成 80.2 ha 畜舎 12 棟	1,017	肉用牛牧場 21 計 21	肉用牛 1,948 頭
11	公社営 やいま地区	平成25～28年 石垣市	草地造成 46.7 ha 草地整備 16.8 ha 畜舎 2 棟 農機具導入 12 台	630	肉用牛牧場 12 肥育センター 1 計 13	肉用牛 1,626 頭
	計	昭和51～平成28	草地造成 1,764 ha 草地整備 17 ha 畜舎 217 台 農機具導入 1,272 台 家畜導入 1,330 頭	29,965	肉用牛牧場 211 肉用牛牧場、養豚場 4 養豚 12 その他 14 計 241	肉用牛 24,435 頭 乳用牛 318 頭 豚 10,908 頭 鶏 68,038 羽 馬 33 頭

資料：八重山家畜保健衛生所

注1：6以降は畜産基盤再編総合整備事業、10から畜産担い手育成総合整備事業(旧畜産基盤再編総合整備事業)

## 5 家畜伝染病予防・病虫害防除・鳥獣被害防止対策事業

### (1) 家畜衛生関係の事業概要(令和3年4月～令和4年3月)

1. 予防注射事業 家畜伝染病予防法第6条の規定に基づき実施する。

(牛)	牛流行熱	牛異常産三種混合	アカバネ病
実施頭羽数	246	1030	103
(鶏)	ニューカッスル病		
実施頭羽数			

2. 家畜伝染病及び届出伝染性疾病発生状況

#### ①家畜伝染病発生報告

家畜種類	病名	発生戸数	発生頭数	死亡頭数	殺頭数

#### ②届出伝染性疾病発生報告

病名	家畜種類	発生戸数	発生頭数	死亡頭数	疑症
牛伝染性リンパ腫	牛	42	42	42	0
破傷風	牛	1	1	1	0
豚丹毒	豚	2	2	2	0

#### ③その他検査実績

	BSE検査	種畜衛生検査	導入牛検査	豚熱	オーエスキー病	アルボウイルス調査
頭数	124	14	136	260	177	179

3. 口蹄疫等侵入防止対策

八重山地域は、口蹄疫やアフリカ豚熱などの家畜伝染病汚染国である台湾や中国に隣接しているとともに、台湾・韓国からのクルーズ船や定期便、チャーター便の就航など国際的な人や物の往来の増加に伴い、家畜伝染病の侵入リスクが高いことが懸念されている。このような中、平成25年3月には新石垣空港、同年4月には石垣港が指定港化され、動物検疫所が携行品検査等を実施するなどの水際防疫が強化されている。

現在、クルーズ船や定期便、チャーター便は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大を受け寄港が停止しているが、これまでの管内における年間入域観光客数は、平成30年度において約140万人であり、うち竹富町の離島へは約105万人が訪れる観光地となっていることから、離島棧橋や各離島(竹富島、黒島、小浜島、西表島)では靴底用消毒マットが設置されている。さらに、各離島における初動防疫強化のため、防疫資材用備蓄コンテナを整備している。また、家畜伝染病が万が一発生した場合に備えて、平成23年度から毎年防疫演習を開催しており、初動防疫体制の強化に努めている。





**【口蹄疫とは】**

ピコルナウイルス科アフトウイルス属に分類される口蹄疫ウイルスの感染による急性熱性伝染病で、伝染力が強く、牛、水牛、豚、めん羊、山羊などの家畜をはじめ、野生動物を含むほとんどの偶蹄類動物が感染する。主症状は39℃以上の発熱、多量の泡沫性流涎(よだれ)がみられ、口、蹄、乳頭等に水疱やびらん・潰瘍が形成される。(下記写真参照)

**牛の症状**



口腔のただれ、多量のよだれ

舌の水疱

**豚の症状**



鼻鏡の水疱

足の皮膚のびらん

**【ASF(アフリカ豚熱)とは】**

アスファウイルス科に分類されるアフリカ豚熱ウイルスによる急性から慢性の熱性伝染病で、豚やイノシシ等、イノシシ科動物に感染する。2018年8月以降、中国各地で発生している。典型的な臨床症状はなく、発熱、食欲不振等の一般的な症状で始まり、結膜炎、呼吸障害、便秘に次ぐ下痢、四肢痙縮等神経症状が現れる。致死率はウイルスの病原性により0～100%まで様々である。(写真参照)

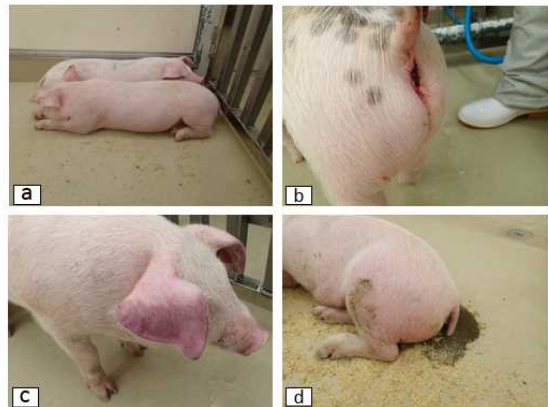


写真2. アフリカ豚コレラウイルスに感染した豚

a: 発熱、元気消失、食欲不振を示して壁際に寄り添うようにうずくまる。

b: 直腸体温測定後の肛門からの鮮血。

c: 耳翼の紅斑。

d: 下痢。

**【令和4年度特定家畜伝染病防疫演習の様子】**

管内は、地域の実情を鑑みた防疫演習を平成23年度から継続的に実施している。

令和4年度は口蹄疫が発生した場合に備え、「口蹄疫に関する防疫措置及び連携の確認」をテーマに

①病性鑑定実習②防疫ステーション設置演習③口蹄疫机上演習および仮設テント設置演習④盛土式埋却演習を実施した。生産農家はじめ、八重山農林水産振興センター各課・市町・関係機関等の参加者へ口蹄疫発生時の対応・防疫作業の流れについて説明し情報の共有を図った。

**①病性鑑定実習**



③口蹄疫机上演習及び仮設テント設置演習

**②防疫ステーション設置演習**



④盛土式埋却演習



(2) 特殊病害虫特別防除事業

① ミバエ根絶事業

【ウリミバエ】

ウリミバエは大正8年(1919)に八重山群島で発見されて以来、分布域を拡大し、農作物に大きな被害を与え、農業振興上の障害となった。

沖縄県によるウリミバエの根絶防除は、昭和47年(1972)本土復帰を契機に始まり、久米島、宮古群島、沖縄群島での根絶達成後、八重山群島では、昭和56年から薬剤による被害軽減防除を実施、平成元年(1989)9月には、八重山群島ウリミバエ不妊虫放飼センターを建設、同年10月から密度抑圧防除に着手した。平成2年(1990)1月から不妊虫放飼防除を開始し、9,000万頭/週(石垣市4,000万、竹富町4,400万、与那国町600万)の航空放飼を行った。平成5年(1993)には確認調査(5月～8月)を実施し、その結果、公聴会(同年10月8日)等の手続きを経て、植防法施行規則が改正(10月29日付、同30日施行)され、八重山群島はウリミバエの発生地域から除外された。このことは、大正8年(1919)ウリミバエの発見以来、実に74年ぶりのことである。

■ ウリミバエの分布拡大と根絶

	侵入(分布)	防除開始	根絶
八重山群島	大正8年(1919年)	平成2年1月(1990年)	平成5年10月(1993年)
宮古群島	昭和4年(1929年)	昭和59年8月(1984年)	昭和62年11月(1987年)
久米島	昭和45年(1970年)	昭和50年2月(1975年)	昭和53年9月(1978年)
沖縄群島	昭和47年(1972年)	昭和61年11月(1986年)	平成2年11月(1990年)
奄美群島	昭和49年(1974年)	昭和60年9月(1985年)	昭和62年11月(1987年)

【ミカンコミバエ】

ミカンコミバエは、ウリミバエと同様に大正8年(1919)に発生が確認された後、本土復帰を契機に根絶防除が開始された。根絶防除は誘殺剤を吸着させた誘殺板を用い、ヘリから投下する航空防除、住宅地等では誘殺板を吊り下げる地上防除が行われ、昭和61年(1986)八重山群島の根絶を最後に沖縄県全域から一掃された。

② ウリミバエ・ミカンコミバエ侵入防止事業

ウリミバエ・ミカンコミバエ根絶後、再侵入を防止するため侵入防止事業を実施している。



ウリミバエ



ミカンコミバエ

■ 八重山群島におけるウリミバエ侵入防止対策概要(令和4年度防除事業計画より)

	石垣市・竹富町	与那国町
不妊虫生産	大量増殖施設でウリミバエの蛹を生産し、不妊化施設でコバルト60放射線(γ線)を照射し不妊化する。	
蛍光色素	黄色: サタンイエロー	白色: インビシブル・ブルー
飼育保管	八重山放飼センター内保冷コンテナ	
放飼方法	・成虫冷却航空放飼 ・放飼当日低温(2～5℃)	地上放飼 (放飼力所数: 100箇所)
放飼不妊虫数	4月、10月～3月: 3,600万頭/隔週	4月、10月～3月: 300万頭/隔週 5～9月: 300万頭/週
防除面積	38,795ヘクタール	2,888ヘクタール
防除時期	・隔週放飼: 4月・10月～3月    ・毎週放飼: 5月～9月	

■ 八重山群島におけるミカンコミバエの侵入防止(令和4年度防除事業計画より)

防除方法	防除地域	実防除面積 (ha)	防除回数 (回)	延べ防除面積 (ha)	1ha当薬剤量 (枚)	総薬剤量 (枚)
地上防除	八重山群島	2,209	6	8,636	3	25,908
航空防除	石垣市	12,500	5	62,500	2	125,000
	竹富町	11,754	5	58,770	2	117,540
	与那国町	2,757	5	13,785	2	27,570

③ ウリミバエ・ミカンコミバエ侵入警戒調査

侵入防止事業の効果を確認するためトラップ調査と寄主植物調査を実施している。トラップは八重山群島で106個設置し、年26回、定期寄主植物調査は年2回実施している。(令和4年度防除事業計画より)

④ 八重山地域のナスミバエ発生状況

昭和59年6月、与那国島において、国内で初めてナスミバエの寄生果実が発見され、平成16年度からナスミバエまん延防止防除事業により平成23年8月に根絶したところであるが、平成30年7月に再び発生が確認された。

平成22年12月沖縄本島で発生が初確認されて以降、平成25年度から発生地域が拡大傾向となり、令和元年度、石垣市および竹富町においても発生が確認された。

ナスミバエは、かつて猛威を振るったミカンコミバエ等と異なり、急激にまん延して大きな農業被害をもたらすものではなく、通常防除が行われていればほとんど被害がないと報告されている。沖縄県では、ナスミバエのまん延防止の取組の一環として、定期的な発生調査、防除対策指導(防虫ネットの設置、被害植物の適正な処理等)、普及啓発等に取り組んでいる。



(3) 移動規制病害虫特別防除(カンキツグリーニング病まん延防止事業)

②カンキツグリーニング病防除対策

カンキツグリーニング病は、昭和63年(1988)西表島において発見され、その後、平成5年(1993)、沖縄本島で発生が確認された。平成9年(1997)の植物防疫法改正により、沖縄県からの果実を除く寄主植物及び媒介昆虫であるミカンキジラミの本土への移動が規制されている。

沖縄県による防除対策は、カンキツ園、庭木のカンキツ類を対象に、現地調査とサンプル収集及び検定を実施し、発生状況の調査を行っている。また、チラシ・リーフレットによる啓発活動、罹病樹の所有者の了解を得ての伐採処分の実施及び伐採指導等の総合的な対策を実施している。

八重山地区では、平成23年度からは一斉調査は行わず、持ち込み診断の呼びかけを行い、カンキツグリーニング病の認知度アップや伐採率向上を目指している。

■ カンキツグリーニング病罹病樹伐採状況

単位:本

項目 地域別	令和3年度持込診断・重点調査			累計(H24~令和3年度)		
	サンプリング数	罹病樹	伐採樹	罹病樹	伐採樹	未伐採樹
八重山計	0	0	0	3	0	0
石垣市	0	0	0	0	0	0
竹富町	0	0	0	0	0	0
与那国町	0	0	0	0	0	0



#### (4) 鳥獣被害防止対策事業

八重山地区における、令和元年度の鳥獣被害額は約1,029万円となっている。各地域では地域協議会や鳥獣被害対策実施隊を設置し、鳥獣被害防止総合対策事業等により被害軽減に努めている。

#### 令和3年度八重山地区における鳥獣種類別被害面積・金額

市町	鳥獣種類名	主な被害作物種類名	被害面積(a)	被害額(円)
石垣市	カラス	パインアップル、かぼちゃ	3.0	181,572
	イノシシ	パインアップル、さとうきび、水稲、かぼちゃ、かんしょ	506.4	6,182,526
	キジ	水稲、かぼちゃ、かんしょ	7.3	208,389
	その他鳥類(クジャク・カモ類)	水稲、かぼちゃ、かんしょ	10.5	336,427
	石垣市 計			527.3
竹富町	カラス	パインアップル	1,350.0	357,678
	イノシシ	パインアップル、さとうきび、水稲	481.0	2,984,892
	その他鳥類(カルガモ)	水稲	4.0	40,000
	竹富町 計			1,835.0
八重山地区 計			2,362.0	10,291,484

資料：沖縄県営農支援課

#### 令和3年度鳥獣被害防止総合対策事業

市町	事業実施主体	事業内容	総事業費(円)
石垣市	石垣市有害鳥獣対策協議会	推進事業：捕獲活動費	425,000
		整備事業：電気柵設置	4,449,706
		事業費計	4,874,706
竹富町	竹富町有害鳥獣対策協議会	推進事業：捕獲活動費	1,900,000
		整備事業：-	-
		事業費計	1,900,000

資料：沖縄県営農支援課

#### 狩猟者登録証交付状況

	種 別				交付件数(計)
	網 獵	わな 獵	第1種銃獵	第2種銃獵	
平成29年度	0	167	70	10	247
平成30年度	0	169	70	9	248
令和元年度	0	165	66	10	241
令和2年度	0	183	77	10	270
令和3年度	0	188	80	15	283

#### 有害鳥獣捕獲(駆除)許可状況

	捕獲許可件数
平成28年度	73
平成29年度	82
平成30年度	140
令和元年度	142
令和2年度	93
令和3年度	114

※自然保護課、竹富町、令和3年度有害鳥獣等捕獲許可実績報告より

#### 狩猟及び有害鳥獣捕獲(駆除)による捕獲数量

	イノシシ	カモ類	バン	キジバト	カラス類	スズメ	クジャク	その他	捕獲数計
平成28年度	1,306	201	21	143	1,231	0	588	1,238	4,728
平成29年度	1,465	323	30	51	1,306	0	545	784	4,504
平成30年度	1,540	174	3	15	2,231	0	1,310	1,989	7,262
令和元年度	1,485	185	0	21	1,909	0	1,013	1,333	5,946
令和2年度	1,578	312	0	34	3,116	0	991	1,417	7,448
令和3年度	1,708	204	0	84	4,390	0	489	755	7,630

※八重山農林水産整備課WISシステム、自然保護課 令和3年度捕獲実績報告より

注：「その他」にハト、キジ等